おりは、いとかくはあらざりけり、三百年ばかりになりたるになんかゝりける、秋ふかくなりては、よき人々やませ給、うち○白河中ぐう○賢子みやたちくわんばくどのゝうへ○師實室麗子大將殿○師通などみなおなじほどすこしうちすがひなどしていでさせ給へば、御いのりかずをらず、をきぶきやうみや○敦賢うせさせ給ぬ、御むすめにおはしませば、齋宮○淳子おりさせ給ぬ、八月に故右おほとの○頼宗の御子、ほりかは中なごん○頼宗子能季右京大夫みちいへ、ひやうゑのすけこれざね、藏人いべざねなくなりぬ、中なごんひやうゑのすけは、うへもなくなり給ぬ、あさましきよにぞ、たじまのかみたかふさ、とうぐう亮經重などなくなりぬ、民部卿○俊家のきたのかた、たじまのかみのむすめ、たうぐう亮のきたのかたなど、おほかたあさましきころなり、すきゞてうち○白河の一のみや○敦文御もがさのなごりなほえおこたらせ給はで、八月六日つゐにうせさせ給ぬ、たれもたれもおぼしなげかせ給ことかぎりなし、うちにも、との○師實にも、いふかたなくなげかせ給、大なごんどの○顯房などいかなる御こゝろのうちなりけん、

〔百練抄五白河〕承暦元年、今年上自后宮大臣下至庶人、皆煩赤斑瘡、親王公卿已下逝去者多、權右中辨師賢一人免此難、敦賢敦文兩親王依疱瘡薨、

〔中右記〕寛治八年○嘉保元年十二月晦日、去年冬天下自疱瘡、引及此春、又今年秋冬赤疱瘡、可云凶年歟、仍改元、

〔皇年代略記堀川〕嘉保元年甲戌、十二月十五日壬午、改元、依疱瘡也、

〔赤斑瘡辨考證五〕按に、嘉保元年赤斑瘡流行せし時の事をいへるなり、

〔百練抄五鳥羽〕永久元年正月廿五日、近日赤斑瘡流布天下、

〔皇年代略記鳥羽〕永久元年癸巳、七月十三日辛卯改元、依天變兵革疾疫也、

〔赤斑瘡辨考證五〕按に、疾疫とあるは概名にて、永久元年赤疱瘡流行の事をいへるなり、